

学年	1年
----	----

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ひらがなの練習や音読を熱心に取り組む児童が多い。 音読では声を揃えて読むことができない児童がいる。 作文では、助詞の「は」「を」「へ」を正しく使いこなせない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 読んでいる箇所を分かりやすくするために本文を拡大したものを黒板や大型掲示装置で映し、音読に合わせて本文を指し示す。 助詞の「は」「を」「へ」は上の言葉につく、くっつき虫のイラストを使い、定着を図る。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 5や10の合成分解がスムーズにできる児童が多い。指やブロックを必要とし、加減計算の定着が不十分な児童もいる。 たし算、ひき算も具体物を操作して式の意味を考えている。計算の技能や文章問題の立式における能力に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的、半具体物を用いたり、問題を身近な場面に置き換えたりする等の指導の工夫をし、意味を明確にとらえられるよう改善する。 合成分解や簡単なたし算、ひき算を習熟させ、反射的に答えが導き出せるようにしていく。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> アサガオの全体の大きさにとらわれて、細かいところに視点がいかない児童もいる。 虫が大好きでいろいろ知っている児童がいる反面、「虫はこわい」と思う児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> アサガオの葉、つる、つぼみ、花など、見どころを絞って観察できるようにする。 みんなであり探しをすることを通して身近な昆虫にしたしむようにする。 足の数に着目させることで、いろいろな虫に目が行くようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカは使えていない。 歌もマスクをしたまま歌っている。どんな気持ちで歌うといいかなと問いかけると、様子を考えて発言できる。 リズム打ちから、打楽器を使って演奏する活動を楽しんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> マスクをしても、歌詞に思いをはせて歌わせることにより、気持ちを込めて歌う姿勢につながてく。 リズム打ちを楽しみながら、打楽器に親しみ、合奏へとつながっていく。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描いたり、ものを作ったりする活動を好み、楽しんで学習する児童が多い。 時々何を作っているのか分からなくなる児童や、友達の模倣に留まってしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 創作の前に想像する活動を取り入れる等、導入の工夫を行い、児童の自由な発想を導き出す。 活動の終わりに児童の作品を紹介し、工夫しているポイントに気付かせるとともに鑑賞の態度を育てる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことを楽しむ児童が多い。 固定遊具での運動に比べ、ボールを使った運動の経験が少ない児童が多い。遠くにボールを投げたり、ボールをキャッチしたりする力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールを扱う活動を増やしていく。上手な児童を手本として、良いところを発表させる。 上手に投げるための合言葉やキャッチをするときの手の向きなど丁寧で分かりやすい指導を心がける。 	